

上野田日記



ル 4
3948
1



門 凡生
號 3948
卷 1

七島日記序
八丈島。上古所謂女護嶋。而遠
流蚪。不甚遠云。乃伊豆七島之
一也。延袤凡百餘里。盤礴於東
洋窮溟之內。雄嶺深谷。抱孤島
而環之。狂瀾急潮。掀巖碕而撼
之。居民推髻卉服。巖栖谷飲。與
羽族俱居。與鱗介俱伍。上世以
來。梯航路絕。輜軒之使。回迷津

詒

命

世

次

早稻田 大學 圖書館
照 26.12.3
藏 書

藏

之槎馬。職方之史。闕底琛之貢。
焉。北條氏之據於小田原。抒柔
遠之志。威服伊豆諸島。八丈於
是乎始通。然風濤崎嶇。時致覆
沒之患焉。國家昌平二百餘
年。浩蕩無際之仁。雨施八紘。海
清險夷。輔軒觀風之使。進貢通
商之航。相續於和風安瀾之上。
寬政丙辰歲。官命豆州縣令

某君。巡視伊豆諸島。問風俗。訪
疾苦。令乃延功曹某。一舸入空
洋。隨風逐浪。冒亂礁雄崖之險。
履蛟鰐毒龍之窟。直抵八丈。殊
效朝廷懷柔之德。其勇決之
氣。忠義之志。為何如哉。又馳其
綺錯之思。錄海道利害。往還里
程。及其地寒溫氣候早晚。山林
藪澤之險易。著七島日記三卷。

命功曹某。寫其人品風俗。服食
器用。水土物產之宜。而附于後。
其間孝子旌表之典。尤足振恒
風矣。嗚呼。遐陬窮島。鱗介之俗。
耳未嘗聽。嚴師友之教。而至性
感於神明。濡於旌典。豈非
朝廷休明之德。衣被幽遠者矣
乎。披覽間。猶犯風濤洶湧之威。
而蹴暗礁斷崖之險矣。使人手

顫。股栗心膽俱寒。亦足以觀其
藻思雄麗。筆力豪宕也。余老境
頽唐。老悖日加。忽逢此大觀。殊
不勝遐想。乃扶疾。接筆序於其
首。

文改甲申五月竹醉日

鵬齋老人龜田興撰



小伊豆七島といへるは伊豆も遠く
沖中にあり。中島も八丈島を百四十里の
外海を隔て只一舟程離れたる島なり。伊豆
七島のつらき人多まぐかの島ありを証ふ。小
島つらうなるもいふると思ひおこす。そ
出づ。ふあ。ず。れの。四月十四日小島に戸をき
お國橋のほり。船小舟。船も。鉄炮。海
ふ。て。島。の。船。小。舟。の。船。も。
人。く。い。ふ。と。い。は。ぬ。み。き。岸。へ。あ。が。る。と。か。

しるしをうらむ。日も暮るる。さるるの暮は、この
仲ふりあかす

十五日おのつらに帆を揚ぐ。くまお探國
浦賀のつらまをまてと、秋のいふ風直あかす

して品川の仲ふりあかす

十六日くまをまて浦賀をきしておふ。又日降

風あり。舟ゆるど神奈川の港ふりあかす。

あまの舟のむつらに、人つらしをまて

人の家ふりあかす。船の三と驛の長よあかす

させてやぶらぐ。めぬ。けり。三日。舟のくま

あかす。や。秋。を。越。る。陸。地。小。島。た。づ。ら。あ。か。す

思ひく小舟のつら。秋のつら。杖をぬ

十七日雨つら。風もつら。の。づ。ら。あ。か。す

やうて午のつら。の。づ。ら。あ。か。す

なり。た。づ。ら。あ。か。す

浦賀よ。つら。あ。か。す

に。戸。へ。ゆ。き。あ。か。す

こ。し。ら。な。り。あ。か。す

十八日。つら。あ。か。す

浦を。過。て。小。船。代。も。あ。い。へ。る。港。小。船。を。つ。も。こ。い。へ。る。え。か

い。ま。も。あ。か。す。家。右。も。あ。か。す。か。つ。も。海。人。が。い。ま。も。あ。か。す。地。引。し。る。綱。を。む。く。な。い。は。ら。あ。か。す。め。

あのみえておもひろし。わがていキトせする紙
えいといちいさき鱒あが鳥賊い又めかぬ小魚す数百を
得あり。あつとれおたる地。海人うらおまおる
不ぞせしとせせて。あつものつ下まへ款も船子
どもまてあまみらて。さつとらつて。海のおも
えむもづらひをえさよるぶら。それ氏神うぢの宅たくわ
居ふうん。石といふ。あつとれ石とてさかん。い
たる遠く。おまよて。ひた音の如し。

十九日同。事にて。うふあつて

廿日辰の由より。おまよ。おまよも風よ。おまよ
おまよる。おまよと帆を揚。未の時。おまよ。大島ら

あつて風も。あつて。あつて。あつて。あつて。
三宅島へ。あつて。あつて。あつて。あつて。
風や。あつて。あつて。あつて。あつて。
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

此上に西風の吹きたるふいふの海より人をおよ
よあわい多航せんことしりもかかいたこと乃
まゝにありしに死あんあきまこところふの思へど
かゝるに恥て口ふさいたら海京をみりせバ重
弁小まぐい沖津浪あゝどめふさくぎるもの
な死をいっふせん

廿一日終夜船よともが力たつくとげいけらげむ。
ろのかいともちちりーが。驚くしよらうらむし入
おぢやうになりてやうく三宅島れこへこ幾
よする。それ人よらといふ。又凡じつう新島
大島へと移ふらに大島をせたりたりたるが波

あゝとてまのべくもつらむ。又東の方へ流るり
楫をいふ。是はせむいふきとて。風定らび西よ南
小東ふあふふがくそ。船をやるべきいふをせ
たりといふよ。いふおくをさへゆ。

されども船子どもが帆をまぎるといふそとて。船の
かがまぬやうにうて。くもさつ。うしをのふた
海原よ。こよいも又たよひあやぬ

廿二日明けりて。附小大島小舟つきて。ま甲のつらと
おもふよ。又ちがといふ。風定たを。さらば伊豆の國の
お椀の國へをいそ。船をかへしに伊豆國河名水
いへる浦よつきたる。此がたいあづき。はくしうしを

多し。只よそかりたる心地。急船をりて。やどり
求つ。流も深し。おろし。か。道す。語わ。そ。大。鯉
つ。船多し。鯉。ほ。させ。い。ふ。仲。中。も。は。高。小
え。さ。き。わ。ま。を。い。づ。の。い。さ。れ。も。ま。は。は。を。れ。魚。と。て。
い。と。り。式。の。ま。ら。か。る。事。も。信。じ。い。ふ。ら。に。船。も。
甲。か。し。深。た。さ。た。た。つ。お。歸。り。ま。つ。さ。只。
お。ろ。し。も。い。ふ。さ。も。め。て。ら。い。ふ。こ。も。あ。ざ。し。あ。た。
は。戸。も。て。ら。ふ。と。異。相。も。受。る。

廿三日。日ありて。い。も。の。志。づ。つ。に。て。い。も。お。ち。あ。こ。し。に。
こ。よ。い。も。そ。い。ふ。と。ま。あ。れ。

廿四日。日あり。お。ろ。し。の。風。吹。た。ふ。お。ろ。し。な。り。

東北の風。き。げ。り。も。岸。の。波。い。と。高。し。仲。め。か。し。を。
え。や。も。ま。白。浪。も。ら。う。ま。て。い。と。も。ろ。ろ。お。ろ。し。お。ろ。し。
り。ん。き。み。ら。う。も。田。い。ま。ぶ。め。る。追。風。を。れ。田。の。邊。に。
お。ろ。し。も。あ。ま。り。い。づ。の。げ。り。を。お。ろ。し。い。ふ。お。ろ。し。
船。を。ら。せ。て。人。の。い。ふ。や。い。と。そ。こ。に。鯛。を。い。づ。ま。ら。し。
は。戸。も。て。ら。ふ。と。異。相。も。受。る。お。ろ。し。を。網。を。ら。う。な。あ。げ。
お。ろ。し。の。針。を。き。り。て。針。を。ら。う。な。あ。げ。
お。ろ。し。を。い。づ。も。入。ま。さ。つ。ま。で。も。い。き。い。ふ。と。い。ふ。こ。の。
針。を。ま。す。も。の。ま。い。り。ち。も。い。は。な。く。よ。ろ。し。ぬ。も。の。
針。を。ま。す。も。の。ま。い。り。ち。も。い。は。な。く。よ。ろ。し。ぬ。も。の。

廿五日

ぶづき入てら。ゆ。事か。か。い。ど。く。の。ふ。さ。き。い。ぢ。ち。ぶ。が。
 八丈島へ。い。へ。る。船。の。名。筋。を。ら。こ。め。て。を。山。見。え。が。が。い。
 糸。を。ら。う。て。十。日。あ。り。を。て。の。糸。は。は。い。い。ま。ぬ。
 う。ぬ。人。は。と。も。の。ぬ。る。れ。ど。と。あ。ま。ら。め。さ。り。わ。
 ま。が。ま。ら。く。酒。の。も。の。を。い。ま。ぶ。く。も。の。小。ね。ふ。が。ど。り。
 う。た。ひ。つ。ま。い。つ。一。と。只。免。を。ま。つ。む。や。り。あ。れ。が。
 ま。よ。ま。き。ゆ。ふ。ぐ。日。本。へ。歸。る。事。れ。あ。る。ま。だ。あ。ま。
 り。ど。し。お。も。い。ち。こ。一。と。あ。や。この。船。が。ど。あ。れ。く。
 ち。ま。の。の。り。に。祈。り。け。し。に。神。佛。の。う。け。を。ま。した。ま。へ。
 う。も。や。東。あ。り。あ。る。い。ち。ま。い。の。る。ま。け。は。費。
 して。船。を。あ。ぐ。る。だ。ふ。き。を。せ。し。も。ば。も。ら。ぬ。中。

心をけし。い。へ。る。事。五。日。五。夜。に。し。解。け。ま。す。
 ち。り。こ。を。伊。國。い。か。な。る。ふ。り。わ。と。う。か。ひ。え。る。八。丈。島。
 なる。船。も。ま。き。い。と。い。ふ。事。を。い。も。さ。か。し。巖。を。い。び。え。
 船。が。ど。り。す。ぎ。し。岸。あ。る。ぬ。さ。も。あ。る。え。し。し。ち。あ。る。が。
 から。し。て。う。ら。の。の。び。と。あ。る。ぬ。さ。も。あ。る。え。し。し。ち。あ。る。が。
 ひ。方。志。も。ぬ。船。の。あ。る。ハ。八。丈。島。あ。る。ぬ。さ。も。あ。る。え。し。し。ち。あ。る。が。
 ち。ま。と。糸。を。清。て。あ。る。八。丈。島。三。根。村。組。の。ま。を。り。
 八。丈。島。の。小。島。を。あ。ら。わ。る。事。は。武。人。の。もの。物。語。を。や。
 ち。ま。と。ま。い。に。あ。る。八。丈。島。小。船。り。す。ぎ。し。あ。る。ぬ。さ。も。
 ち。ま。と。あ。る。し。し。れ。方。ま。ま。を。神。漆。と。い。い。ま。申。の。
 う。た。ひ。ま。い。八。重。根。し。ら。ふ。の。ら。神。漆。八。舟。の。い。で。の。り。

あらんと。そとに。船をよせんとするに。ゆあーと。ちり
 およばず。八重のつらうく。さふふの。ほのむつら。き事。
 きあてても。ちりん。これ。岸。さめ。あひも。
 ふくらの。ほ。は。さ。き。時。は。ひ。人。こ。
 もの。つらう。さ。も。船。さ。事。か。あ。伊。の。國。
 ね。の。國。あ。も。へ。船。も。て。さ。な。れ。汐。強。ま。
 き。め。え。あ。か。い。も。お。き。り。お。し。を。さ。さ。戻。と。ふ。
 ち。ん。さ。て。ハ。ま。根。の。さ。な。れ。西南。小。崎。なる。岸。よ。さ。
 う。の。ぬ。き。の。か。さ。な。り。つ。な。さ。ま。は。つ。ま。の。
 山。も。り。の。船。船。と。舟。入。も。を。た。右。の。岸。へ。つ。武。間。
 ぐ。り。あ。て。を。浦。ぬ。さ。ら。張。い。で。い。ま。も。さ。ん。が。か。

おも。岩。皮。を。そ。ぞ。岩。小。あ。たり。て。船。を。け。船。も。て
 つ。あ。さ。こ。ゆ。ん。と。ぞ。れ。ぞ。う。の。綱。定。み。て。ち。り。切。て。う。め
 ほ。も。船。の。つ。ら。う。事。を。さ。め。れ。つ。を。岸。も。さ。高
 ぐ。し。ぞ。ふ。れ。わ。ら。の。さ。り。の。中。へ。板。を。さ。し。つ。を。ま。
 は。板。を。あ。ら。う。て。わ。ら。さ。き。岸。お。つ。きた。ら。れ
 ー。に。あ。わ。さ。さ。の。ま。お。ぼ。さ。で。わ。ら。ら。は。ら。
 い。ま。い。ら。あ。わ。ら。ら。船。の。つ。ら。い。ひ。あ。り。し。う。さ。の。
 事。思。ひ。い。ら。う。て
 つ。の。そ。ら。お。物。なる。く。あ。も。ぞ。我。の。ち。さ。入。ら。う。もの
 と。た。う。と。む。ら。い。ひ。さ。も。あ。い。さ。や。の。國。の。岸
 け。も。あ。き。船。を。さ。は。の。へ。つ。あ。さ。て。置。ま。の。の。

いんえんしに島の舞は波高く。又まきあつは波の湧は
る。急なれどもわつて陸へ。むきあげ並べて島は長
とも。西人大勢。むきつきて。積入る物。のりべ
らまあけ。船りて。八重根より。わらうき。あはれの
いふまへ。むいて。まじを。うこ。船むきあひ。たよりけ
ま。まあり。されども。遠成なるゆへ。荷積多。船りへ
よ。いづも。わらうき。むきあはる。が。てけい。おじ
やうい。風む。も。又。いづも。ま。た。一。般。り
と。そ。岸。小。む。かけ。並。べて。宗。福。寺。よ。う。浄。土。の。寺。よ
や。とり。む。ぬ。八。丈。島。よ。寺。み。ら。る。外。の。む。の。寺。も。
長。樂。寺。よ。う。浄。土。宗。あ。ま。り。れ。ども。妻。を。と。ち。肉。を

らふ。む。を。い。ま。め。れ。う。れ。を。あ。り。同。じ。う。る。遠。き。海。の
中。よ。う。む。つ。り。を。あ。れ。た。つ。る。ま。あ。る。僧。ま。し。た。り。べ
く。れ。ど。と。て。任。僧。代。り。その。子。を。傳。へ。て。い。戸。の。増。上。寺。へ
わ。り。て。佛。の。道。ま。あ。い。せ。て。後。任。と。い。ふ。を。ま。ま。か。り
し。て。む。を。傳。灯。の。す。え。さ。し。人。事。を。承。り。ふ。り。ぬ。り。む。を。
た。り。と。む。

九日。う。あ。る。船。む。き。あ。り。と。て。濱。途。に。わ。て。え。る。に
新。石。を。繞。り。の。れ。を。す。ま。ら。く。む。さ。し。あ。ぐ。べ。さ。小
河。の。村。より。大。勢。を。わ。り。て。か。つ。さ。と。あ。い。ふ。もの。よ。て。
群。く。に。も。や。り。と。て。柏。子。を。そ。ろ。ひ。く。む。さ。し。あ。げ。る。が
此。島。も。し。ら。む。む。教。を。海。へ。し。て。鹹。草。と。い。ふ。物。を

しよ。かきままでこの産をまじひちるが。これこそあはれ
ハナキ九十歳のものも。めづりしを。百歳中も至
おれど。かぎさいといふべし。もて病ヤマイくくふ。中ナカ中
一萬あまふ人なる。盲めくらめくら人をも。中風
癩かた病びょういし。まれお。たのしむても。あはれを。やめる。
まの産うまかん。いして。いしへも。難産なんさんも。事ことふ。
とぞ。めづり。風かぜ倍ばいふて。血ちの。あはれを。いふ。む。甚こころ
し。も。思おもふ。に。あや。といふ。家いえを。い。かき。て。月乃
さり。に。あり。た。女に。その。た。や。十二日あひの間あひ。む。き。に。て。
あ。が。れ。を。ま。さ。る。又また。孕はら婦とも。も。月つきに。お。れ。だ。た。わ
へ。ゆ。き。て。産うまを。ま。る。右みぎふ。へ。る。め。も。難産なんさんハ。も。え。て

か。れ。を。い。れ。や。ま。し。く。産うま。七夜しちやを。さ。る。し。バ
お。ま。の。兒こを。い。ま。さ。て。家いえ小歸せうき。か。の。め。を。な。る
ゆ。へ。小家せうかも。い。ま。も。多おほ。こ。の。多おほき。八人はちにんより。十五
六人むいじんを。い。ま。し。く。能たか。く。思おもふ。一ひと人にんも。か。ハ。ミ
た。し。こ。り。れ。ま。べき。よ。あ。い。も。先まち。小味せうみ食じを。
く。ふ。か。れ。ど。食物じきの。毒どくを。さ。る。事ことな。く。又また。母ははの。中な乃
事ことを。さ。る。き。つ。ら。も。事ことも。さ。れ。る。事こと。者おほを。さ。る。
又また。い。し。へ。より。金銭きんせんの。通つう用よう。か。れ。を。い。ま。さ。げ。ら。え
う。し。も。鬼おにも。角かく。の。も。ん。を。骨ほねも。事ことも。く。ち。や。
生なま涯がひ。ま。り。に。る。か。の。づ。ら。仙境せんきやうの。趣おもむき。も。用もちい
ま。し。て。善よす。れ。道みち。か。ち。へ。る。た。も。べ。し。さ。つ。あ。ま。も

女多おほき島しまかしの色欲しきよく小耽せうたんる事ことはかたし
中ちゆうゆががのかのこままぬ物もののこひひ又またをを勞らうもも
すすももちちくく形體けいだいしくくややたたるるゆゆへへ小せう色欲しきよくの害がいももすす
よよややもも飲いん食じき男女なんにょののをを行いいままににいいかうかうふふ
おおももにに心こころををららししもものの天壽てんじゆををたたららものものいいああ
さされれどど男おとこ女めづこの大欲たいよくももああるる小せう美びををららしし美酒びしゆ飲いん
のの心こころをを勞らうももるるれれ損えんハハななららずずかかばばゆゆハハ夫ふう
島しまよりよりりりててももききてて養生じやうじやうの理りをを思おもひひままににいいかうかう
ささるる女めづこの操そう平へいくく不義ふぎ淫いんををららししままににいいかうかうはは義ぎ
かかききぬぬ事ことををららししままににいいかうかうはは義ぎ
ああるる女めづこのの事ことももににままににいいかうかうはは義ぎ

夫おつとの子義こぎををららししままににいいかうかうはは義ぎ
娘むすめののああももををららししままににいいかうかうはは義ぎ
島しまももららししままににいいかうかうはは義ぎ
十日じゅうにちととももららししままににいいかうかうはは義ぎ

十一日じゅういちにち々々ふふああららししままににいいかうかうはは義ぎ
ららハハかかききごごどどいいくくももををららししままににいいかうかうはは義ぎ
赤あかもも魚うしほ多おほくくららししままににいいかうかうはは義ぎ
ああららししままににいいかうかうはは義ぎ
ううややかかどど我われももぬぬ才さいはは白しろ味あじいいももああららししままににいいかうかうはは義ぎ
鯛たいていししりり魚うしほもも納いれめめのの味あじももああららししままににいいかうかうはは義ぎ
ももももららししままににいいかうかうはは義ぎ
鯛たいていももああららししままににいいかうかうはは義ぎ

すゞむい。おどすべく。國地。よき重さ。か。きび。かつ。じろ
あち。鮫の類。多し。そ。か。よ。も。あ。と。い。も。國。よ。め。さ。れ。ぬ。重
の。と。た。り。と。

十二日より十四日までかゝる事あり

十五日より八丈縞縵をゆきし。あやの。い。せ。小
窓。あ。り。て。ま。じ。れ。あ。り。て。様。を。ま。ま。か。い。の。あ。い。ま。家
ま。か。る。あ。い。ま。絹。を。り。せ。ぬ。もの。ぬ。い。つ。の。い。え。り。う。さ
ま。あ。り。し。ぎ。あ。ん。が。れ。と。感。あ。ぬ。せ。中。に。真。物
の。機。縵。あ。ら。注。連。ひ。き。ま。り。て。さ。ら。は。め。た。り。や
ま。い。ほ。し。し。事。の。殊。練。を。受。え。ゆる。さ。て。織。た。り。
絹。を。八。丈。縞。と。い。ひ。て。丹。後。織。と。い。ふ。その。は。丹。後

縵の縞をよ本として。さ。り。も。め。を。も。や。深。さ。を
くら。び。其。の。三。色。小。か。ぎ。る。ま。い。い。え。の。事。を。さ。ゆ。ハ
か。む。い。ん。と。い。ふ。ま。じ。み。と。い。ふ。木。の。皮。と。い。ふ。め。ま。い。
う。り。や。ら。と。い。ふ。草。と。い。ふ。さ。る。里。と。椎。の。木。の。皮。と。い
ふ。深。さ。を。か。ら。や。ら。と。い。ふ。もの。國。地。よ。も。あ。と。い。ふ。ま。い。
かり。あ。り。て。ま。い。に。ま。い。の。ぬ。き。草。と。い。ふ。右。三。色。も
ま。い。と。い。ふ。あ。い。ま。い。の。め。を。い。ま。い。と。い。ふ。又。の。ま
す。事。か。ら。深。さ。と。い。ふ。事。に。五。十。魚。縵。小
して。色。を。ほ。し。と。い。ふ。様。を。さ。ら。は。め。た。り。あ。い。ま
あ。い。ま。い。の。か。ら。も。あ。い。ま。い。と。い。ふ。さ。ら。は。め。た。り。あ。い。ま
ハ王子。か。ら。け。の。桐。生。あ。ら。う。と。い。ふ。八。丈。縞。を。縵。と。い

おほしき事にて。看とす。又是中をびといふ。かたち
 美に。志やこ。なほいふものに似たり。方多く志の
 志びとをわらう。又ここ姉。多し。志やこを
 あふきし。海の水を煮て島人の食。其に戸をまじ
 味かりて。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。
 くさみ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。
 おろし。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。

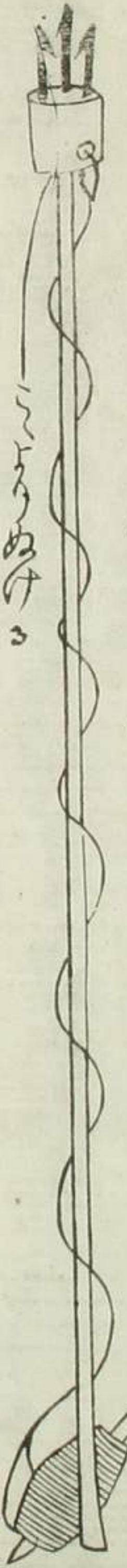
廿一日。志やこ。廿四。志やこ。志やこ。志やこ。

廿五日。志やこ。塩をやく事。志やこ。志やこ。志やこ。
 志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。
 志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。

塩とたも。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。
 人々。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。
 志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。
 志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。
 志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。
 志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。

廿六日。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。
 志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。
 志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。
 志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。志やこ。

このてよやくしゆをま甲ふすし。肉おめ味よりあ
 ぶら多し。その時へてともあがす。又較のちが
 ともともあがす。久しあめ。つあめおけ
 ままとも油盡く。あいらもまもめらもめ
 きて。龜ハいらのまを餌す。めらめらへいりま
 りかめらめらへいりかめら。まのめらまてとる
 やらら。右小圖もらめら。龜ハいらもらまの草た
 らしあま。しらの方よりまらま。まやまて。甲さつめ。
 つれらあま。ふけふけら。其ららへら。かまのま
 めけ。やらまをちかめら。海底へあげら。まも圖す



西のまをわら。甲へまらへら。めけらめら。めらま
 ら。網をかめらへら。ゆけゆけ。つら。あ。け。ら。ま。ら。ら。
 ち。そのつら。ち。その岩小。まらら。まらけ。その
 と。ワのま。かめら。おを。て。て。て。おめ
 ち。あ。ら。め。ら。い。も。わ。ら。ら。儀。邊。小。ら。ら。ら。ら。
 ま。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
 切。ら。ら。又。龜。を。ま。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
 い。先。か。め。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
 そ。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
 の。もの。り。め。ら。あ。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。
 あ。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。ら。

西ふらきいたきごとく山とらぶらぬ

廿八日 廿九日 かくしゝゝか

六月朔日

大賀郷より榎立村へ行くらに大坂とら小坂あり
 絶壁の間みらをつけたり。國のへいをえはすが
 ず。おもしろくついでわくくゝゝのぢりゝをゆのへも
 たり牛もまゝのまゝをいふがう。わくくゝとらつづつ
 る。せき山馬ふら。まゝのものゝて。牛猫鼠のゝらふか
 ぎる。されも。ものゝまゝにゝまのば牛のゝらふか
 らゝゝものゝまゝ。鼠にゝかゝり。倉ふものをた
 らへるに鼠とせがし事をとらせさるゝものゝらひ

あをぬ。鼠をふせがし事をとらふ。又山猫といふ物も。
 只よのつひの猫これとも。かゝるものなき。祭山よむ也。
 又家鼠のぬへおさか。人家ちくぐむ多し。祓ぐ
 おられぬ。ぬへおにのね。卵かきぬらさむらなど。猫
 ぐりぬへ。てらむ。鼠ハ草木のうまゝてハ。海
 猫ハ鼠をとらふ。又へびむらで。とらふあま。
 人するに五穀をとらふ。いませ。鳥獸のあま。
 へらもあま。又深山は天兒といふ物。そ人をたぶら
 ぬ。あま。國地のまつ。おといふもの。あま。
 色のとら。あま。あま。あま。天兒の所為なり。
 恐おのき神。ふらたひ。祈。あま。あま。あま。

ともおろしぬが。中一山猫のと一みりたきまて。かつら
 あらゆるや物。文字のわがわがとこふ天兒と。かつら
 のしやよりてかきあひをさる。さて鳥ことた多し。
 黒鳩。むらとり。かつらとり。かど國地ふおさと思ふ。あれど
 鳥よあさ鳥いお。只野鷄山鶴の。か。又燕
 大さく。こ。高。高く飛て人の家よ巣を住る。か
 又鳥多し。中にも白蟻といふ。て人の家をうこふ。
 家よつきる。をさる。て日をふれが。柱よひ入て
 柱よをひをさる。是哉ふせ。とて柱のもとに
 塩をい。富るもの。柱の本を銅よ。つむ此島。す
 土つふり。互鼻ハ石垣よみら。海の石よ石を。こがは六物よひ

酒の。あんとさる。あやう。さる。まらう。くひ地のう入を
 け。ゆえんすれを盃の中へ口よ。國地よ
 ゆきたる者。これ。志つよ。ありて。全身。かゆき。あえ
 ず。又。や。この。虫。て人。さす。これ。あ。あ。あ。
 当ふ。を。焚。あ。り。ま。て。戸。障。子。これ。く。か。び。
 衣類。調。度。あ。ひ。思。ひ。や。べ。此。島。田。園。よ。て。五。穀。よ
 この。れ。も。一。日。海。上。風。お。こ。る。浪。水。を。ふ。さ。た。て。島。嶺
 あり。事。あ。ま。ら。ぬ。色。これ。か。さ。る。島。人。が。是。を。志。ぬ。の
 あ。ぐ。も。い。ふ。志。ぬ。と。い。ふ。海。中。の。毒。氣。あり。と。ぞ。され。を
 かつら。も。い。ふ。や。ま。れ。い。ふ。もの。さ。る。ひ。を。て。ち。中。に。あ。り。て
 葉。い。か。れ。て。も。根。の。残。る。き。物。を。多。く。採。り。享。保。中。さ。つ。ま

いもれあひをとりて後てよま。年々多くなりて今を
島人のうゑたまふ。

御恵乃いもたうとをひきけあまやもおろいぞ
受ええ傳ふ。又女の髪も一とに長さハ六尺三寸ざり
あををみる。又形容とて若し。年五十ありといふもの四
十にちたうしと見えゆ。女おろこみめよりハ丈島ハい
川の女護の島なりといひつゝ。今は生るる子女多し
とぞ。これとも國地小遠さゆ。又風俗ハ大に異なり。江
戸のおもむきをえつちつても。それお習ふるをなく。國
地乃人ハものこり。かふさち見にけり。いひとぞ
あり。いもたうとをひきけあまやもおろいぞ。女のおろこみめよりハ丈島ハい

いもれあひをとりて後てよま。年々多くなりて今を
島人のうゑたまふ。
御恵乃いもたうとをひきけあまやもおろいぞ
受ええ傳ふ。又女の髪も一とに長さハ六尺三寸ざり
あををみる。又形容とて若し。年五十ありといふもの四
十にちたうしと見えゆ。女おろこみめよりハ丈島ハい
川の女護の島なりといひつゝ。今は生るる子女多し
とぞ。これとも國地小遠さゆ。又風俗ハ大に異なり。江
戸のおもむきをえつちつても。それお習ふるをなく。國
地乃人ハものこり。かふさち見にけり。いひとぞ
あり。いもたうとをひきけあまやもおろいぞ。女のおろこみめよりハ丈島ハい

いもれあひをとりて後てよま。年々多くなりて今を
島人のうゑたまふ。
御恵乃いもたうとをひきけあまやもおろいぞ
受ええ傳ふ。又女の髪も一とに長さハ六尺三寸ざり
あををみる。又形容とて若し。年五十ありといふもの四
十にちたうしと見えゆ。女おろこみめよりハ丈島ハい
川の女護の島なりといひつゝ。今は生るる子女多し
とぞ。これとも國地小遠さゆ。又風俗ハ大に異なり。江
戸のおもむきをえつちつても。それお習ふるをなく。國
地乃人ハものこり。かふさち見にけり。いひとぞ
あり。いもたうとをひきけあまやもおろいぞ。女のおろこみめよりハ丈島ハい

牛をとりて^{ひた}なめし、またあつちききま^ひして^{ひた}の^{ひた}めい^ひ
と^{ひた}せ^{ひた}る。その^{ひた}あつちき^{ひた}なる牛。さかから^{ひた}くた^{ひた}を^{ひた}大^{ひた}勢^{ひた}を^{ひた}あげ^{ひた}
おふ^{ひた}牛^{ひた}い^{ひた}さ^{ひた}を^{ひた}ら^{ひた}く^{ひた}て^{ひた}小^{ひた}ご^{ひた}ん^{ひた}として^{ひた}さ^{ひた}ふ^{ひた}り^{ひた}の^{ひた}か^{ひた}ら^{ひた}其^{ひた}牛^{ひた}
さ^{ひた}も^{ひた}あ^{ひた}つ^{ひた}ち^{ひた}あ^{ひた}つ^{ひた}も^{ひた}ち^{ひた}ま^{ひた}り^{ひた}て^{ひた}。その^{ひた}の^{ひた}網^{ひた}を^{ひた}さ^{ひた}き^{ひた}め^{ひた}い^{ひた}
い^{ひた}ま^{ひた}ほ^{ひた}く^{ひた}し^{ひた}た^{ひた}ぐ^{ひた}る^{ひた}の^{ひた}ら^{ひた}し^{ひた}と^{ひた}す^{ひた}い^{ひた}は^{ひた}く^{ひた}さ^{ひた}す^{ひた}。あ^{ひた}つ^{ひた}ひ^{ひた}
長^{ひた}き^{ひた}い^{ひた}ふ^{ひた}を^{ひた}は^{ひた}ら^{ひた}き^{ひた}い^{ひた}ら^{ひた}ふ^{ひた}も^{ひた}か^{ひた}く^{ひた}た^{ひた}る^{ひた}を^{ひた}し^{ひた}の^{ひた}は^{ひた}は^{ひた}あ^{ひた}
さ^{ひた}ま^{ひた}が^{ひた}い^{ひた}ら^{ひた}し^{ひた}ま^{ひた}い^{ひた}ま^{ひた}い^{ひた}ら^{ひた}ふ^{ひた}が^{ひた}め^{ひた}い^{ひた}を^{ひた}え^{ひた}る^{ひた}。あ^{ひた}れ^{ひた}ま^{ひた}
る^{ひた}事^{ひた}を^{ひた}や^{ひた}む^{ひた}ま^{ひた}ぐ^{ひた}ら^{ひた}く^{ひた}して^{ひた}。その^{ひた}の^{ひた}り^{ひた}さ^{ひた}を^{ひた}遠^{ひた}く^{ひた}ま^{ひた}り^{ひた}
あ^{ひた}つ^{ひた}し^{ひた}小^{ひた}子^{ひた}ひ^{ひた}つ^{ひた}け^{ひた}く^{ひた}も^{ひた}網^{ひた}を^{ひた}さ^{ひた}き^{ひた}め^{ひた}い^{ひた}は^{ひた}あ^{ひた}つ^{ひた}ち^{ひた}の^{ひた}ら^{ひた}
の^{ひた}え^{ひた}し^{ひた}あ^{ひた}つ^{ひた}ち^{ひた}ま^{ひた}ら^{ひた}う^{ひた}の^{ひた}ま^{ひた}に^{ひた}牛^{ひた}家^{ひた}ま^{ひた}ら^{ひた}お^{ひた}ぎ^{ひた}て^{ひた}。数^{ひた}日^{ひた}後^{ひた}
へ^{ひた}ぬ^{ひた}も^{ひた}ど^{ひた}飼^{ひた}牛^{ひた}と^{ひた}な^{ひた}る^{ひた}も^{ひた}ど^{ひた}又^{ひた}も^{ひた}ら^{ひた}の^{ひた}ま^{ひた}の^{ひた}事^{ひた}と^{ひた}さ^{ひた}す^{ひた}。

